

2019 年度 事業計画書

《自 平成 31 年 4 月 1 日～至 令和 2 年 3 月 31 日》

公益財団法人 電気科学技術奨励会

【 事業計画 】

本公益財団法人の平成 31 年度の事業計画としては、次の諸事業を予定している。

- (1) 創設 70 周年部会「当会のあるべき姿」についての最終答申（別紙）を受けての具体的実行
 - (2) 「第 67 回電気科学技術奨励賞」の贈呈
 - (3) 第 58 回電気科学技術講演会の開催
 - (4) 動画を交えたホームページの充実による積極的な情報発信
- 各論は、以下の通りである。

1. 創設 70 周年部会「当会のあるべき姿」の最終答申（別紙）を受けての具体的実行

平成 28 年 3 月に開催の理事会において設置の承認をいただいた創設 70 周年部会（2022 年 4 月の創設 70 周年をめざして、「当会のあるべき姿」の諸課題を検討するため発足した部会）が 2 年間の審議を経て、このほど最終答申案が平成 31 年 3 月 4 日の理事会に諮られ決議された。

喫緊及び中期的課題の一覧表の提言にある通り、喫緊の課題として既に実行したもの、創設 70 周年を見据えて検討を加えながら、提言に沿って中期的に実行するものなど、その内容は多岐に渡っている。

中でも制作に時間を要し、4 か年計画で進めている 70 周年記念史の編纂をはじめ、併せて平成 30 年度以前の奨励賞受賞者及び受賞支援者の中から受賞を機にその所属企業や受賞者及び受賞支援者本人がどのような変遷を遂げて今日に至っているかをインタビュー形式にて訪ね歩く、“受賞者アーカイブ・シリーズ”（B5 判 8 頁の小冊子）企画を発足させている。受賞者アーカイブ・シリーズで 15 名程度の人材を紹介したインタビュー記事は、その後 70 周年時に別冊として一冊にまとめることで取り組んでいる。受賞者アーカイブ・シリーズの小冊子は、この会の事業に供する運営費を頂戴している多くの賛助会員社並びに寄附社(者)へ毎回配布するとともに、新たな賛助会員社の積極的な促進にも活用している。

今後とも、文部科学大臣賞、電気科学技術奨励賞受賞者を対象とした受賞記念出版、受託出版などの制作にも力を入れ、寄附金の抛出依頼を中心に財源の確保に努めて行く。

2. 「第 67 回電気科学技術奨励賞」の贈呈

「第 67 回電気科学技術奨励賞」については、電気科学技術の分野において優れた業績をあげ、今後更に顕著な研究成果が期待される研究者、技術者、教育者を顕彰するために賞状並びに記念楯を贈呈する。

なお、推薦候補者の募集・選考については、研究者、技術者、教育者の意欲の向上に寄与し、更なる電気科学技術の発展に資することを目的として、電気科学技術に関する広範な分野において研究・技術開発に携わる方々を産業界、大学、工業高専、公設試験研究機関等の団体を対象として広く公募し、公平、公正かつ厳正な審査により授賞者を選考していく。最近の傾向としては、大学、工業高専等の教育関係者のうち、とりわけ工業高専からは教育関係のみならず技術関係への応募も多くなっている。しかしながら、大学からの応募が少ないのが現状である。大学への積極的な呼びかけをはじめ、中小規模の企業等からの推薦応募を促進することに精力的に務めることとする。

このような課題、局面を打開するため、推薦案内状による直接の呼びかけやホームページを活用した情報の発信など、より充実した広報活動に取り組む。さらに内閣府のご指導を含め、門戸を広く開放し英語、中国語、韓国語版での呼びかけ等の積極的な情報発信により受賞候補者推薦公募を精力的に行う。

また、平成 23 年度から研究開発における技術情報の重要性が増大していることに鑑み、各学会からのインダストリアルペーパー（実務家の経験・ノウハウを分析・分類し、体系化して共有化することを目的とするペーパー）の論文執筆者は奨励賞に該当するとの判断から、各学会から推薦された場合は審査の対象とすることとした。過去には、一般社団法人 情報処理学会からの推薦候補(平成 26 年度)がこれに該当するものであり、この時は授賞作として入選を果たした。

3. 「第 58 回電気科学技術講演会」の開催

「電気科学技術講演会」は、文部科学省主催の科学技術週間参加行事の一環として実施している。本年度の「第 58 回電気科学技術講演会」は、4 月 19 日（金）に東京・新宿区立四谷区民ホール(東京都新宿区)にて開催する。講演会は入場無料で、科学技術に関心のある一般の人を含め全国から 450 名程度の聴講者の来場を目標として広く参加を呼びかける。

本事業については、従前通り、文部科学省、一般社団法人 電気学会、公益社団法人 日本電気技術者協会、株式会社 オーム社の後援、協力を得るとともに、公益財団法人日本科学技術振興財団の協賛を戴く。

第 58 回の講演会は、演題を『進化する“くるま”の電動化と要素技術』とし、講師に 6 名を招き開催するが、各講師と演目は別添パンフレットの通りである。

4. ホームページの充実による積極的な情報発信

平成 28 年 11 月 1 日に当法人独自のホームページ(<http://www.shoureikai.or.jp>)を開設した。平成 30 年 12 月末現在、閲覧数はおよそ 1 万数千件に達している。

昨年は新しい試みとして、第 66 回電気科学技術奨励賞贈賞式の状況を動画配信して好評を得た。平成 31 年度も同様の取り組みのほか、電気科学技術講演会についても動画配信を企画している。

以 上